

(シラバス No.2) (基盤科目)

科目名	研究法特別演習Ⅱ 英語名: Special Seminar on Study Method Ⅱ	必修/選択	選択必修	
		単位数	2単位	
		担当教員	仁平 義明	

【授業概要】

いじめ、ほめ、心の回復（レジリエンス）など「教育臨床科学」上の問題を例にとり、実践上も研究上も未解決の問題を解決する実践研究の方法論を自ら組み立てていける能力を身につける方法論演習である。心理学分野の知識をベースにした「根拠に基づく教育」(Evidence-Based Education; EBE) のための研究法だといえる。具体的には、①実践の中で研究すべき問題と目的を自らどう発見・設定し目的に合った研究をどう計画していくか、②新しい実験的な教育的対応の効果をどのようにして検証していくか、③子どもを扱う研究で倫理上の問題とくに「インフォームド・アセント」の問題をどうクリアしていくか、世界の先駆的な文献を読み込みながら、研究を計画・実施し、実践に還元できる知識とスキルを獲得し、実践的心理学分野の伝統的モデルである「実践家—研究者」として自立していくための学修を行う。

【キーワード】

根拠に基づく教育 (Evidence-Based Education; EBE)、教育臨床科学、効果の検証法、インフォームド・アセント、実践家—教育者モデルにおける方法論

【授業の到達目標】

- (1) 自分が解決したいと考えた問題が、それまで日本だけでなく世界の中でどのようなかたちで問題にされてきたか、先行する実践や研究を組織的に検索して、すでに解明されていることの先に進むという、真に「巨人の肩の上に立つ」(Google Scholar のキャッチコピーになっているニュートンの表現) 問題設定ができるようになる。
- (2) 一つの研究の範囲で可能なものにしぼった問題設定と目的の構成ができるようになる。
- (3) 研究に必要な倫理審査申請に必要な文書を自分で作成するための知識を持てるようになる。
- (4) 教育研究でしばしば必要になる多要因研究を計画し結果の処理ができるようになる。
- (5) 「根拠に基づく教育」の意味と根拠の水準が理解できるようになる。

【スクーリング実施の有無】

スクーリングの実施【あり】 スクーリングのメディア受講【可】

【授業計画】

回	内 容
1	オリエンテーション 本演習のねらい・進め方
2	「根拠に基づく教育 (Evidence-Based Education)」とは—根拠の水準—
3	すでにある先行実践と研究の検索法—「巨人の肩の上に立つ」方法—
4	研究の独自性・オリジナリティの示し方
5	研究倫理審査申請の実際—対象者に必要な配慮とインフォームド・コンセントの実際—
6	子どもを対象とする研究での研究倫理審査申請—インフォームド・アセントの実際—
7	教育現場での実験的介入研究法の実際 (1) —いじめ介入効果の研究法—
8	教育現場での実験的介入研究法の実際 (2) —ほめ介入効果の研究法—
9	教育現場での実験的介入研究法の実際 (3) —レジリエンスのための介入効果の研究法—
10	教育現場での多要因研究の実際 (1) 因子分析による現場研究の例
11	教育現場での多要因研究の実際 (2) 重回帰とロジスティック回帰分析による現場研究の例
12	教育現場での特性測定法 (1) —共感性の測定法—
13	教育現場での特性測定法 (2) —自尊心の測定法—
14	教育現場での特性測定法 (3) —パーソナリティとしてのビッグ・ファイブの測定法—
15	「根拠に基づく教育」研究法のまとめと展望
試験	

**【履修にあたっての準備・履修上の注意点】**

教育心理学あるいは心理学を履修済みだと、学修が容易になる。多数の英文文献を読むことになるので、考慮の上で履修を。

**【スクーリングでの学修内容】**

○スクーリングでは、学修の初期に、授業の目的や学修の概要を知り、この科目を通じて何を指すかを学生と教員の相互に確認する。また、各自の予定する研究テーマの研究法についてデータベースを使って文献を実際に検索し、研究方法を学習する。

○さらに、学修の終期に、学修のまとめとしてもスクーリングを行う。

○学修の初期のスクーリングに関しては、スクーリング前には研究テーマの候補を準備しておき、スクーリング後には文献検索と先行実践や先行研究を参照しながら、研究可能な一つのリサーチクエスションにまで絞り込めるようにする。また、学修の終期のスクーリングに関しては、スクーリング前に自己のテーマに関する研究のレビューの大枠ができるようにアウトラインを準備しておくことが求められ、スクーリング後にはそのテーマについて「研究展望」を投稿できる程度の手稿として仕上げるのが期待される。

○スクーリングはこの2つの時期を含み、合計4コマ6時間以上をめぐり行う。

**【評価方法】**

合否については、研究計画・方法に関するプレゼンテーション・レポート（50%）、科目修得試験（50%）で評価する。

**【テキスト】**

○仁平義明 資料『子どもを対象とする研究の倫理—インフォームド・アセント』\*受講生に配布  
※オリエンテーションで関連する資料のリストを配布予定。

**【参考図書・文献】**

※オリエンテーションでこの他の図書・文献を含むリストを配布予定。

○仁平義明（2018）「傍観者に焦点をあてた“いじめ対応”プログラムの効果量（effect size）に関する研究と実践の現状」『共生科学研究』、第13号、pp.53 - 66。

○仁平義明（2015）「「自尊感情」ではなく「自尊心」が“self-esteem”の訳として適切な理由—Morris Rosenberg が自尊心研究で言いたかったこと—」『白鷗大学教育学部論集』、第9巻、2号、pp.357 - 380。

**【教員メッセージ】**

○解決したいと思っている「私の現場の問題」は、日本の多くの現場に共有されている問題であり、世界ではさらに広く共有されている問題であることが普通である。先行研究や先行実践を検索してみると、問題に対する答そのものや解決のヒントが日本の文献にも数多くあり、海外にはさらに膨大なものがある。国際的な先行研究・先行実践を検索することは、世界との「研究・実践上の共生」だといえる。

**【備考】**

○各回のテーマについての学修資料は、オリエンテーションのときに指示。

○質問や研究上の相談には、スクーリング時だけでなく、随時、メールやZoomで対応する。

○受講者の知識の程度と関心のフォーカスに応じて、内容は柔軟に変更する。